

## 安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業

### 令和6年度に終了した試験研究課題の事後評価結果及び行政における研究成果の行政施策・措置への反映方針

課題番号	試験研究課題名及び実施研究機関	実施期間	研究概要	評価所見	総括評価	研究成果の行政施策・措置への反映方針
23812759	<p>カキのノロウイルス汚染低減に関する研究 【実施研究機関】 カキのノロウイルス汚染低減に関する研究グループ ・(国研)水産研究・教育機構 ・宮城県水産技術総合センター ・宮城県保健環境センター ・国立感染症研究所</p>	R5～R6	<p>(背景・目的) カキのノロウイルス(NoV)を低減するためには清浄な海域での養殖が基本となるが、養殖海域を清浄化することは現実的には困難なケースが多い。そこで、生産現場での実行可能性を考慮した現実的な対策として、養殖棚から収穫した後のカキから NoV を低減する方法の開発が望まれているが、国内外の知見は十分ではない。また、従来、NoV 以外のウイルスを用いて汚染低減処理の評価をすることが一般的であったことから、NoV の低減効果はこれまで十分に評価されていない状況である。</p> <p>本試験研究課題では、カキ中の NoV 低減に効果のある浄化処理条件について、人為的に作製したノロウイルス汚染カキを用いて定量的に検証を行う。また、効果的な衛生対策の普及に貢献するため、生産現場で実行可能な対策を取りまとめたガイドブック作成に資するデータを提供する。</p> <p>(研究項目)            ① 人為的汚染カキを用いたカキ中の NoV 低減効果の検証            ② カキ中の NoV 低減対策に関するガイドブック及び人為的 NoV 汚染カキ試料作製方法に関する資料提出</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カキ中のノロウイルス低減に明確な効果のある浄化処理条件の設定までには至らなかったが、培養可能で感染性を評価することが可能なサポウイルス株を用いた検討も行うことで、PCRによる遺伝子数の減少だけでなく、感染性低減効果も検討する土台となる研究が行われた点は高く評価できる。</li> <li>・種々のリスク低減策の組み合わせ(亜塩素酸、高水温、高pH、ウルトラファインバブルなど)で実験を行い、カキ中のノロウイルス低減手法を確立するための今後の研究の進展に繋がる結果が得られており、先導性は認められる。</li> <li>・現状、カキの生活環や個体差によってノロウイルスの蓄積性や浄化処理によるウイルス低減効果が一定ではないこと、また低濃度域ではリアルタイムPCRの定量精度に限界があること(リスク低減手法の評価方法の技術的な限界)から、再現性が十分に検証できないため、更なる検証が必要と考える。</li> <li>・また、浄化処理費用やカキの商品価値(味等の品質)の面からの検証も必要と考える。</li> <li>・2年の間で多くの貴重なデータが得られ、地方水産試験研究機関等において活用可能なノロウイルス汚染カキ試料作製手順を更新し、ノロウイルス低減効果検証事例を作成してホームページで公表できたことは、高く評価できる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カキ中のノロウイルスを低減する可能性が示唆された高水温等の浄化条件について、再現性を検証した上で、最新の科学的知見等も含め、生産現場で活用できる対策を取りまとめたガイドブックを作成し、効果的な衛生対策の普及に活用</li> <li>・本事業成果であるノロウイルス汚染カキ試料作製手順及び分析方法についてもガイドブックに収載し、ノロウイルス低減効果の現場での実証をさらに推進するために活用</li> </ul>

<総括評価の説明>

- A: 研究目標を達成し、研究成果を行政施策・措置に十分に活用できる。
- B: 研究目標の達成に至っていない部分もあるが、行政施策・措置に活用できる成果が得られている。
- C: 研究目標はやや達成されておらず、行政施策・措置への活用には更なる成果を要する。
- D: 研究目標の達成は不十分であった。